

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	山口 真美		
NAME	Yamaguchi M.K.		

1. 研究課題

(和文) コミュニケーションの文化差の神経基盤

(英文) Cultural specific facial expressions and body language movements

2. 研究期間

1年間 (2021 年度)

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文)

本申請では、顔表情ならびに音声言語の文化差の成立過程をその神経基盤から検討する。たとえば表情カテゴリは文化を超えた普遍性が主張され続けてきたが、近年の研究から文化差の存在が明らかになった (Jack et al., 2009 など)。申請者はこれらの研究を発表したグループと、表情認知の文化差が生後7ヶ月から存在することを発表した (Current Biology, 2016)。本申請では、研究室が開発した手法である色カテゴリの神経基盤の解明 (PNAS, 2016) を改変し、表情カテゴリの神経基盤の解明と発達、母国語の子音や母音の弁別の神経基盤の解明と発達から、文化差の生成過程を検討する試みを行った。言語獲得前の生後5-9ヶ月の乳児を対象に fNIRS (近赤外分光法) を用い、基本表情カテゴリに沿った顔の差異への感受性と神経基盤、母国語の子音や母音の感受性と神経基盤、さらにはその文化差がいつ形成されるかを検討した。表情カテゴリの文化差は、共同研究先であるカナダとスイスで fNIRS を用いた実験を行い、音声言語の文化差は共同研究先である理研と共同で行い、コミュニケーションの文化差の神経基盤の解明から、文化差の詳細に迫った。

(英文)

We want to clarify the 'implicit' cultural differences. There are many culturally specific facial expressions and body language movements that we usually do not notice. The key point is the cultural differences in perceiving facial expressions. Facial expressions were considered to be universal, as seen in famous studies by Charles Darwin and Paul Ekman. However, recent psychological data have shown that facial expressions are culturally based.